



平成30年3月1日現在

総人口	12,796人
男	6,228人
女	6,568人
世帯数	5,273世帯

島内農業文庫 記念講演会 『現代死に方考』 高橋卓志住職

「君に与えられたひとつの命は、いったいどこから来たのか? その命を持ってこの世に生きていく君は、なにをしなければいけないのか? 必ず終わりが来る命をどう生き切るのか?」を問い続け、市民タイムスに長年連載されてきたコラム『四苦抜苦』の開校(校長・永六輔、教頭・

松本城を世界遺産に



第3回お城見学会の様子

「国宝松本城の世界遺産をめざして」第1回講座が1月17日に、第2回講座が2月2日に島内公民館で行われ、それぞれ受講者で満席になりました。第3回の松本城見学会は3月7日に松本城管理事務所の後藤先生他2名の講師により、松本城内外をくまなく説明していただきました。平成5年に文化遺産に登録された「姫路城」や独自の展開をしている「彦根城」との違いをどう出すか? 各種課題も有ることがわかりました。

無着成恭)。学びは遊びと、10年間百回に及びキラキラ授業を実施。永校長は昭和天皇と黒柳徹子ネタが得意だったとまぎ笑わせ始まります。人生は苦しみの連続、死の現場を見続けてきた自分として、死をどうとらえ、どうしようとしたのか。

現代の寺は、切り取られた死だけに関わる。四苦(生苦、老苦、病苦、死苦)に一貫して関わることはない。特に厄介な死苦を抜苦しようとはしない寺の在り方に、四苦を一連として考え、それらに附随する苦を取り除く努力をすべしと、ユーモアを交え解りやすく話は進みます。

医師・鎌田實さんが言う

『いい医者』の10カ条を紹介

- ① 患者の話聞いてくれる
- ② わかりやすく話をする
- ③ 薬にたよらない
- ④ 暮らしの注意してくれる
- ⑤ 専門医をすぐ紹介する
- ⑥ 家族の気持ちに心が配れる
- ⑦ 地域に詳しい
- ⑧ セカンドオピニオンに対応
- ⑨ 悲しさを寂しさが理解できる
- ⑩ 本当のことを言ってくれる



本日の講義を云おうか、切さんのみははしるが、私は坊さんではない

- ① つまみ暇な医者
 - ② 専門知識をひけらかさない
 - ③ 腹一杯になるほど出さない
 - ④ 養生法を教えてくれる
 - ⑤ 横のつながりが強い
 - ⑥ 心配りの達人
 - ⑦ 介護施設や薬局、鍼灸師やいい坊さんを良く知っている
 - ⑧ 同業の医者が身近にいる
 - ⑨ 痛みは薬で対処し、寂しさを悲しみ、虚しさも対処する
 - ⑩ 嘘をつかない医者 と解説
- 百人の生き方があれば百人百様の死苦があり、百人百様の別れ方がある。死に逝く人の苦しみをどう緩和し、見送る側の悲しみにどう向かい合うべきか、葬儀の在り方を常に考えていると言います。そんな高橋住職に永六輔さんが贈ってくれた

『いい坊主』の10カ条とは

- ① 説教が面白くて飽きない
- ② 戒名で稼がない

(詳細は公民館へご連絡を) ⑩ 死に逝く人に怖がらなくていいと言える を紹介。

⑩の死に逝く人に怖くないと言えるかどうか、死んだことがないので死の世界が解らない。だから現場に常にいる、と結びました。

重い「死」というテーマに素直に向き合えた、とても貴重な時間だったという声が多くの方から寄せられました。4月以降は住職を離れ、仏教の源で暮らされるとのこと。最後の機会を特別にいただきましたことに合掌です。

ふれ愛コンサート



1月27日(土)、島内公民館において『人権を考える住民の集い 島内・島立ふれ愛コンサート』が開催されました。

島内公民館ギャラリー
ピアッツァ
予定

山岳写真展
4/9日~4/27日

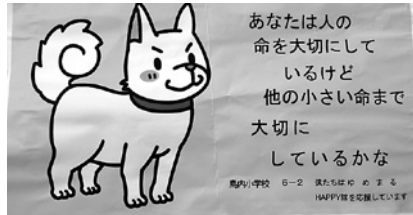
五月人形展
5/8日~5/31日



殺処分～命について考えました～

島内小 6 年 2 組から地域のみなさまへ

僕たち 6 年 2 組は、昨年の 2 月から総合学習の時間に、1 年かけてペットの殺処分の状況を通して「命を大切にすることという事はどういう事なのか」をテーマに学んできました。その成果をまとめましたので、ぜひ読んでください。



たくさんの命が殺処分されていることを知りました。ペットを捨てるのはひどいと思うけど、保健所にいる犬や猫が、殺処分される前に、一匹でも多く里親が見つかり、一緒に暮らして、飼い主もペットも、両方が思い出に残る生活ができればいいなと思います。

殺処分の現状

皆さんは猫や犬、その他のペットを飼っていますか？ ペットはともかわいいですね。でもその一方で、ペットの事で問題になっていることがあります。殺処分の問題です。全国では、毎年 8 万頭近くが保健所で殺処分されています。多くは野良犬や野良猫、大きくなりすぎた、子どもが増えてしまったなどの理由で捨てられたペットたちです。いろいろな団体等が引き取ったりしてはいますが、それでも殺処分の頭数はいつこうに減りません。減らないのは、かわいいなどの簡単な理由でペットを飼い、簡単に捨ててしまう人たちがいるからだと思います。僕たちは、そんな人たちに捨てたことを反省し、後悔してもらいたいです。そして、これから飼い始める人には、

正しく飼いましょう

最後まで、死ぬまで飼うことができるのかを考えて飼ってほしいと思います。島内小学校 6 年 2 組では、ペットを飼っているのは 30 軒の内 13 軒で、その内犬は 4 軒、猫は 9 軒、その他が 5 軒です。松本市にはペットショップが 18 軒あり、簡単に犬や猫たちが飼えてしまいます。そのため、犬や猫のことで問題になっていくことがあります。松本保健所の高山さんから話をうかがうと、市内から寄せられる犬に対する苦情は、島内地区からが、全体の 2 割と一番多いそうです。理由は、新しい住宅が増え、建物が隣接している状況で、犬を飼っている軒数が多く、鳴き声がかかるさいという苦情につながっているようです。

皆仲良く暮らすために

- ① ファンや鳴き声は迷惑をかけるないようにしつけをする。
- ② 不幸な動物をつくらないために、繁殖を望まない場合

犬の保護引取り処分状況 (H28 松本保健所)

保護	99 匹
引取り	3 匹
合計	102 匹
返還	65 匹
譲渡	36 匹
自然死含む処分	1 匹
収容中死亡	1 匹

は、子供を産まないための手術を受けさせましょう。③ ふん尿の始末は、飼い主が片づけましょう。④ 猫は屋内飼育を心がけて。⑤ 犬が、行方不明になったら、すぐに松本保健所に連絡をつけて。⑥ 犬の散歩は、引き綱を必ずつけて。ゆめまるハッピー隊について 保健所にいる犬たちを保護し、里親を探して引き渡す活動をしている「ゆめまるハッピー隊」の事を知りました。たくさんの犬たちがいますが、過ごしやすい工夫がされていきました。ペットフードやタオル等の費用は寄付が頼りだそうです。来たばかりの犬もいました。飼い主が、飼いはじめたら最後まで飼いつけてくれれば、保健所の引取り数が減り、ハッピー隊の負担も減るのになと思います。

コミュニティ・スクール

島内小 6 年 2 組の新聞チームから記事の書き方の相談を受けたことをきっかけに、公民館報編集委員会は、チームの 4 人に『公民館報への掲載』を提案しました。小学生が実際の編集に関わることは初めての試みです。4 人は、普段書く学校の作文とは違うことに最初苦戦しましたが、自分たちの思いをしっかりとめましました。6 年 2 組の児童 29 人は他にもチラシ、ポスター、映像制作、募金活動で、地域に「命の大切さ」を訴えようと、学校から出て活動をしてきました。地域の中で学ぶ子どもたちを、地域が育むという姿勢で応援していきたいと思えます。4 月からは中学生になる彼らの今後が楽しみです。



【新聞チーム】のメンバー。左から瀬谷璃虎君、霜古田瑛人君、大月七碧君、降旗朋哉君。彼らが頑張って書いた記事です。